

## 雨宮 賢二 さん (映像・CG制作会社 プロデューサー)



- 奥様+愛犬と暮らす50代
- 奥様の弘子さんは、東京電力株式会社の労務人事部ダイバーシティ推進室長
- 犬の散歩、朝食を作り妻を起こす。その後一緒に朝食・片付け、一緒に出勤が毎朝の日課
- 夜は待ち合わせできるときは一緒に帰宅、途中外食やお弁当を買って一緒に食事。または早く帰った方が犬とお迎え散歩に
- 週末の食事・掃除・洗濯は妻、犬の散歩は夫担当



## 田中 祐之 さん (監査法人 トーマツ職員)



- 建設会社退社後現在の会社に勤務
- 奥様の岡崎さんは、株式会社 リクルート リクナビ編集長
- 2005年結婚、お嬢様1歳半
- 2ヶ月の育児休業を取得
- 現在保育園へのお迎えと家事を分担



### ワークライフバランスを保つために心がけていることは

- 計画を立てるとか、こうあるべきと思うより、「どうにかなる」という思いが大切。
- お互いのワークスタイルを尊重し、むやみにあれこれ指図しない。お互いを追い込まない。
- 土日はゴルフ・買い物・犬と公園など必ず外でリフレッシュするようにしている。
- 時間的には仕事中心だが、好きなことを仕事にしているので、長時間働くことが苦にならない。それでも最近はかなり家庭に仕事を合わせている。

### 働きやすい会社になるために重要なことは

- 自分の会社でだけで進めようとしてもなかなか進まない。良き外圧が必要であり、重要。
- 社内では横並び意識をなくすことも重要。
- お客様(一般企業)が変わってくると自分達の仕事も変わってくる。

### 男性へのメッセージ (働く妻を持つ男性に)

- 自分が忙しく余裕のないときには焦って理解しようとしても難しかった。その時期は理解することが出来なくても、うるさいことは言わず黙って見続ける。
- ある程度の年齢になって自分の仕事をコントロールできるようになると、自然と相手のことも見えてくるし、理解出来る。そのときに少しずつできる家事や協力をすればいい。

### 女性へのメッセージ

- 急に答えを出さずにその姿を見せ続けるということで、パートナーの気持ちも変わってくると思う。
- 女性も意識を変えることが大事。「何もかも完璧に」は無理。捨てたりあきらめたりすることがきっとあるはず。
- 自分も最初から今のような気持ちになったのではない。生き活き仕事をし続けている妻を見ているうちに自然に応援したいという気持ちになった。

### 奥様から

- 家に帰ってお互い会社の話をオープンに話し合う。話す中でやはり夫が一番の味方だと思う。
- 共働きで経済的には余裕があるが、得ているものと捨てているものがある。平日の手作り夕食はあきらめているし、お金で解決していることも多い点は夫にも理解してもらっている。
- 人に元気を与える仕事をしていることもあり、家庭・主人の存在は非常に大きい。
- 家事等は突き詰めてきっちり当番制などにしていたら続かない。できる方がやる。

### 毎日の子育て、仕事の両立でよかったこと、困っていること

- (奥さんは)自分とは別の人格であり、お互いに独立していられるところがよい。なにかしないといけないときに(洗濯でも掃除でも)、「娘がいるから」と思うとやる気も出る。

### 会社のことをお聞かせください

- 会社には一桁だが、男性で育児休業をとった人はいない。男性も女性も育児休業をとれる制度は同じ。以前の建築会社では、女性が働き続けるのは難しかった。
- 男女比率は、クライアントサービス9(男性8割)、バックオフィス1(女性8割)。実力があれば、大きな問題はなし。

### 改善してほしいことはありますか?

- 発熱での急なお迎えは厳しいので、なるべく保育園で預かってもらいたい。通常時の保育については満足している。
- 会社の制度は充実している。短時間勤務や、週3日勤務もできる(小学校卒業まで)。

### 男性へのメッセージ

- 自分の生活を大事にしなければならないのはわかるが、1人でのより2人でのほうがいい。敢えて結婚しない人もいるけど、結婚したら良いこともあるよ、と伝えたい。

### 女性へのメッセージ

- 男性女性にかかわらず、だれそれはこうあるべきと考えないほうがいい。価値観の開放をしてあげると楽だと思う。
- 自分だけで解決しようとしなくていい。

### その他

- 自分のキャリアを考えると、「家単位」で考えるといいのではないかな? 今は相手に頑張ってもらいたい時期。例えば大学院に行くとかでも、夫婦でどちらが行きたい時に行くということだと思ってる。家内には頑張ってもらいたい結果を出してほしいと思ってる。